

高良仁美ピアノコンサート



教育委員会

たより

文責
伊平屋村教育委員会
屋比久健太郎



令和七年十二月九日(火)、伊平屋小学校にて高良仁美さんによるピアノコンサートが開催されました。村内の幼稚園児・小中学生、一般参加者が来場し、約二時間にわたり美しい音色に包まれました。

高良さんは、武蔵野音楽大学附属高等学校を経て同大学を卒業。浜松国際音楽器フェスティバル&アカデミー、日本フルートコンベンション、IABC:3水戸などで公式ピアニストを務め、国内外の著名な演奏家から厚い信頼を得ています。ソロ、室内楽、オーケストラなど幅広い分野で活躍し、レコーディングも多数有り、ソロのCD『金井喜久子ピアノ曲全集』全曲世界初録音、『伊福部昭ピアノ作品集』はレコード芸術誌で特選に選ばれ、ビルボードでも上位にランクイン。『瑞慶覧尚子ピアノ作品集』沖縄・夏の風景』はTBS機内放送にも採用され好評を博しました。

現在は、尚美コンセルヴァトリアル・ディプロマ科で音楽器のコレペティールとして講師を務めるなど、音楽界で精力的に活動を続けています。

ピアニスト 高良仁美氏が語る「夢を追い続ける力」

〜音楽を通じたキャリア教育〜

令和七年十二月九日(火)、伊平屋中学校で、世界で活躍するピアニスト・高良仁美(たからひとみ)氏を講師に迎え、中学生向けのキャリア教育講演会が開催されました。沖縄での幼少期から世界の舞台上に立つまでの歩みを通して、夢を持ち続けることと努力の大切さを語ってくださいました。

音楽との出会いは三歳、赤いおもちゃのピアノがきっかけでした。幼い頃は遊びの延長で音楽に親しみ、小学校高学年では木琴に熱中し沖縄トップレベルに。やがて中学時代、東京の音楽高校進学という大きな目標を掲げます。

当時は音楽の基礎であるソルフェージュすら知らず、専門指導者もない状況。それでも「音楽の道に進む」という強い思いを胸に、ピアノ専攻を決意。受験までの約一年半、母親が片道二時間半かけて那覇まで送迎し、家族で挑戦を支えました。

高校時代には、朝六時半からの練習を三年間一日も欠かさなかったというエピソードが、強い意志と自己管理能力を物語ります。

プロとしての生き方については「お金をいただくに値する高い内容を提供できるか、常に考えること」と語り、若い才能に負けないためには自分を進化させ続ける努力が必要だと強調しました。楽譜を「物語」として読み解く姿勢が、その向上心を支えています。

さらに、高良氏は「人との出会い」の重要性にも触れ、恩師や先輩とのつながりが自身の道を開いてきたと振り返ります。

「向上心さえあれば、道は切り開かれる」というメッセージは、生徒たちの心に深く響きました。



高良仁美さん 講演会

高良仁美さん 講演会